



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 60 号 2016. 2. 12

FSCの設立趣旨

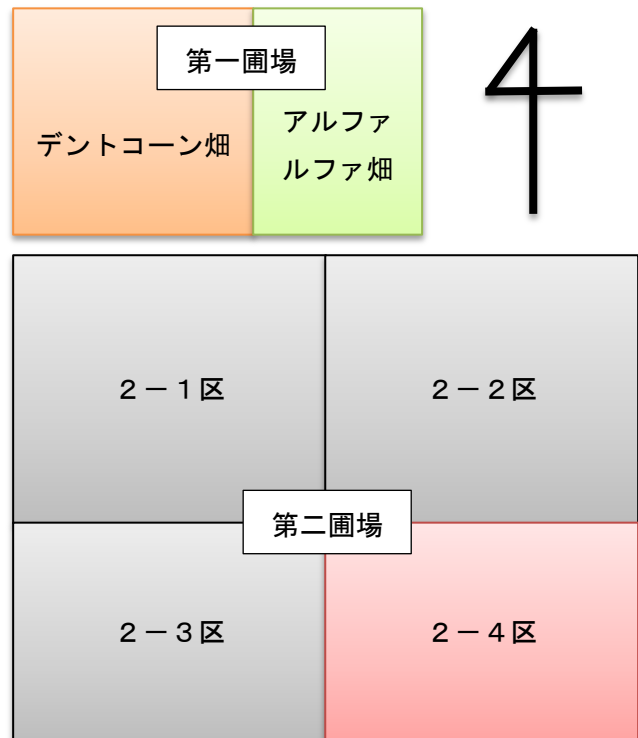
土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

草地の更新計画について

十和田農場は約 2ha の第一圃場と約 8ha の第二圃場、合わせて約 10ha の採草地から、飼養する家畜の粗飼料を生産しています。しかし近年は、土壌の pH が全体的に高いため牧草の成長が悪く、加えて昨年度から除草剤や化学肥料を使わない粗飼料生産に切り替えたこともあり、雑草の侵入を抑えきれずに牧草の収穫量が減少していました。そこで、根本的な土壌改善と雑草の根絶を目的として、4 か年計画で採草地の更新を行う予定です。

今年度は 1 か年目として、10 月中旬に第一圃場のデントコーン畑とアルファルファ畑、及び第二圃場の 2-4 区に堆肥散布後、耕起を行いました。pH が高いのは表層のみであることが土壌調査によってわかっているため、耕起を行うことにより pH が正常範囲に戻ることを期待しています。また、来春に一度除草剤を用いて雑草を根絶することで土壌をリセットし、除草剤、化学肥料を使わない有機的な粗飼料生産に切り替えることを考えています。除草剤の廃止に向けて、デントコーンの生産はリビングマルチ農法を用いることを計画しています。リビングマルチ農法とは、土壌侵食を防止すること目的として、主として栽培する作物とは



別の作物の播種を行い、主作物の生育期間中も生育を続けさせて地表を植物で覆わせる方法です。除草剤で雑草を根絶しても、新しい雑草の侵入は防ぎきれないので、リビン
グマルチとしてシロクローバーを用いて無農薬のデントコーンサイレージの生産を目指していきます。今後の計画としては、1か年毎に第二圃場の1区ずつを同様に更新していき、4か年で第2圃場全体の更新を完了させる予定です。



八雲牧場から 紅葉祭への出店

八雲町北里大学交流推進部会（北里八雲牛普及推進協議会の傘下組織）として10月10日～11日の獣医学部の学園祭である紅葉祭に参加しました。北里八雲牛の学内および十和田市民へのPRと八雲町のPRを目的とし、北里八雲牛に八雲町内産軟白ネギと八雲産のタレを使用した北里八雲牛ネギバラ焼きと八雲町内産トウモロコシ焼きを販売しました。上々の売れ行きでした。

東都生協組合員の親子体験学習会を開催

10月10日～12日にかけて、東都生協の親子体験学習会を受け入れました。大人13名、子供2名の計15名の参加でしたが、今回は、北里八雲牛の登録会員の主婦の方々が多く、八雲町内の北里八雲牛生産農家の方も加わり、北里八雲牛について価格設定や調理方法など、様々な意見交換を行うことができました。

残念なことに、雨天での体験学習となりましたが、ピザ作りや精子・卵子の観察など、楽しく学習していただけたと思います。



東都生協未来フェスタへの出店

10月17日に、東都生協の「未来フェスタ」に小野係長と森岡主任、北里八雲牛生産組合の佐藤組合長が参加しました。

今回は、昨年から東都生協で限定販売を行っている「草熟北里八雲牛無塩せきコンビーフ」の試食を行いました。こちらの説明を熱心に聞いてくださる組合員の中には、「限定だとなかなか買えないので、もっとたくさん販売してほしい。」との意見をいただきました。

今年度の放牧期間終了

去る10月23日で今期の放牧がほぼ終了しました。今期は効率的な放牧をめざして、牧区の入替えや掃除刈りなどもこまめに行いました。それが直接増体に結びついたかは定かではありませんが、牛にとっては居心地の良い

環境を提供でき、過ごしやすい放牧期間になったのではないかと思います。



放牧地から牛舎に移動する北里八雲牛達

(編集担当：畔柳 正)